大会報告

多摩クラブカップを完全制圧！

2007年9月17日 クラブカップ2007（長野県駒ヶ根市）

長野県協会
木村佳司

4時間競って7秒差！ 多摩OLがクラブカップとベテランカップの二冠に輝いた。

しびれる展開！

多摩OLが3年ぶりにクラブカップ優勝。7人で4時間を越える長い勝負だったが、僅か7秒差で勝負がついた。

レースは最後の最後までもつれた。

最終ランナーが最後の森を抜け、スタジアムを見下ろす高台まで降りてきたとき多摩OLの円井基史とES関東の加藤弘之がほぼ同時。多摩OLの円井がほんの10mほど先行している展開。目が離せない接戦は大観衆の見守る中で展開された。

「ガンバレー！円井！」

「加藤！」

最終コントロールに向かう両選手に飛び交う声援。

その差は開くことも縮まることもなく長い長いフィニッシュレーンを駆け抜けてゆく。円井は監督兼エースとしての意地を見せ、歓喜の中へと飛び込んでいった。

アンカー勝負！

円井基史が6走から4位でチェンジオーバーを受けた。先行するはES関東の加藤弘之、OLP兵庫の片山裕典、京葉OLクラブの寺垣内航。トップとの差は1分もない。

特にES関東の加藤弘之は、この夏に行われた世界選手権の日本代表選手。国別対抗リレーでは日本代表のアンカーを務め、フィニッシュ前の競り合いでアメリカ、ポルトガルを撃破した男だ。競り勝つのは容易ではないと誰もが思った。加藤は2日前に行われた駒ヶ根スプリント競技でも優勝しており、そのスピードは誰もが認めるところだ。

だが円井は先行する加藤を気迫の走りで捕らえ、多摩OLに歓喜の優勝をもたらしたのだ。

1位の多摩OLの7秒後に2位でES関東、さらにその33秒後に3位のときわ走林会、さらにその5秒後に4位の京葉OLクラブと、息をつくまも無いほどの間隔でフィニッシュ。4時間を競い合った激闘に決着がついた。この大激闘はスタジアムにいた多くの参加者・観客の前で繰り広げられ、その手に汗握る展開とエース同士のぶつかり合う気迫にしびれていた。

クラブカップ結果

1 多摩OL-A 4:00:21
菅原琢 前田裕太 今井直樹
JoergVetter 平雅夫 多田宗弘
円井基史

2 ES関東C-A 4:00:28
小暮喜代志 藤沼崇 土井聡
山口季見子 渡辺円香 山口大助
加藤弘之

3 ときわ走林会A 4:01:01
佐々木良宜 千葉妙 早瀬悠 朴峠周子
藤本裕介 小泉成行 高橋雄哉

4 京葉OLクラブ-A 4:01:06
齋藤和助 香取伸嘉 神山康 小山清
早野哲朗 櫻本信一郎 寺垣内航

5 入間市OLC-A 4:06:57
井上博人 山下智之
山口尚宏/大塚弘樹 高野由紀
清水伸好 新隆徳 水嶋孝久

6 渋谷で走る会A 4:09:39
MortenPedersen 羽鳥和重 林城仁
山本英勝 志村直子 篠原岳夫
鹿島田浩二

ベテランカップも多摩OL

ベテランカップにも参戦した多摩OLは、序盤からどんどんリードを広げ、ダントツの優勝を飾った。まずはベテランカップで優勝インタビューを受け、その後、クラブカップでも優勝のインタビューを受けた。クラブカップ15年の歴史の中でひとつのクラブが両方のクラスを制覇したのは初めてではないだろうか。

ベテランカップ

1 多摩OL-E 3:10:20
宇野明子 鈴木規弘 小野賢二 加藤昭次

2 京都OLC 3:46:46
平島俊次 古津和夫 塚田元朗 久保喜正

3 三河OLC－V 3:47:11
小幡昭次 新見守 内藤ヒロオ 河村健二

つながってこそリレー

今回のクラブカップで最もよかったと思えたのは、競技終了時刻を待たずして、全チームがフィニッシュしたことだ。コントロール不通過が無ければ、ほぼ全チームに成績がつくことになる。

7人リレーになってからというもの、今までのクラブカップはコースが長すぎたり難しすぎたりで、必ずしも全てのチームにとって最適のコース設定では無かった。

クラブに所属するどんな人にも対応できるコースであって、それでいて上位選手が競い合うにふさわしい課題をもつコースを提供することはなかなか難しい。だが、今回はこの難しい課題に対して、目標以上の結果が出たクラブカップとなった。

やはりリレーは全員でつないでこそ初めて「面白い」と感じることができるのだ。

（木村佳司）

上位争いとは別の挑戦もあった。
一人で7区間を走り通した山田高志。
自分のチーム「山田高志」のリレーが終わったのち、他チームの7走を走り、合計8区間を走り通した。チーム名も「山田高志Bonus Truck」・・とってもお茶目だ。